

令和2年8月14日（金）、中央公民館で西ノ島町成人式を開催しました。今年は平成11年4月2日から平成12年4月1日生まれの21名が対象で、14名が出席しました。

新成人の皆さんは、夏らしく晴れやかな浴衣や、スーツ姿など特別な日を彩る装いで参加しました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年と異なり来賓の参加を最小限としたり、恒例のナイトクルージングもなく、いつもより寂しい成人式となりましたが、出席できなかった成人者のためにオンライン配信を試みるなど、新しい取り組みも行いました。

式典では、升谷町長が「西ノ島町で生まれ育ったことに、誇りと愛着を持ち続け、自分の可能性を信じ、失敗を恐れず何事にも果敢に挑戦して夢や目標に向かって大きく羽ばたいてください。」と式辞を述べました。

また、中学校時代の恩師である能海千文先生からは「この難局を前向きにとらえよう。自分の頭で考えよう。出来ることをしよう。変化することを恐れるな。」という言葉が。

祝 成人おめでとうございます

西ノ島町成人式



小学校時代の恩師である道川一史先生からは「うまくいかないことや難しいことが続いたとしても、ふてくされず、やけにならず、我慢して辛抱を重ねて打開策を見出してください。地道に行動し続けることができれば、どこかに手を差し伸べてくれる方がいるはずです。」という言葉がそれぞれ新成人に送られました。

続いて、新成人一人ひとりが現在の状況や今後の抱負を発表し、それぞれの想いが会場に伝わり温かいエールの拍手が送られました。

最後に新成人を代表して石塚準也さんが「多くの方々への感謝の気持ちを忘れず 成人としての決意を忘れず 力強く 優しく 遅しく 生きていくことを誓います。」と謝辞を述べました。

新成人の皆さんの、今後ますますのご活躍をご祈念いたします。



小中一貫教育について

小中一貫校として、義務教育9年間を一貫した目標で教育活動を行うことにより、「確かな学力」と「ふるさと愛」そして「豊かな心」を備えた西ノ島町に必要な人材の育成を目指す準備を進めています。

昨年度までの先進校視察より、小中一貫教育の様々な効果があることが分かりました。具体的には、以下のような内容です。

異年齢集団による交流活動を通し、思いやりの気持ちが育つ

上学年が下学年とともに交流活動を行うことにより思いやりの気持ちが育ちます。それにより、いじめの件数の減少が期待されます。さらに、下学年にとつては、上学年がよきモデルとなり、キャリア形成を考えるうえで効果的であると言われています。



9年間を見通した教育過程により確かな学力を育てる

9年間を見通した教育過程により、小学校では中学校へのつながりを意識した学習指導、中学校では、学習のつまずきを小学校を振り返って指導でできることにより、学力保障が期待されています。

中1ギャップの解消

中1ギャップについて、一般的には、小学校から中学校へ進学する際に、学校生活の変化により、様々な問題が生じることだと言われています。例えば、学習の仕組みの違い（教科担任、専門的な内容で学習内容が多い）により、授業についていけなくなり、何事に対してもネガティブになってしまい、子どもの意欲が減少してしまいます。さらには、小学校までの人間関係（友人や教員と）の変化から、不登校やいじめなどが増加してしまうことだと言われています。

そこで、小中一貫した目標で教育活動を行うことにより、小学校、中学校の教員が相互に情報交換をしながら、接続を意識して指導にあたります。小学校の教員は、中学校での生活を意識して指導にあたり、中学校の教員は小学校の様子をふまえて指導にあたることで、中1ギャップの解消が期待されます。

公民館の取組

ふるさと子ども体験隊

「マリンスポーツ体験」

7月4日（土）、18日（土）に小学生を対象にした毎年恒例の「マリンスポーツ体験」を開催し、B&G海洋スポーツセンターにて、シーカヤックを行いました。

例年、7月に1回のみの開催でしたが、毎年希望者が多いこと、ソーシャルディスタンスを確保することなどをふまえて、今年度は2回に分けて開催致しました。

西ノ島小学校の1～6年生が総勢29名参加しました。また、1～3年生の保護者さん9名も参加してください。賑やかな活動となりました。



地域ボランティアアさんもたくさん集まっていたいただき、衛生面に配慮しながら、カレーとフルーツポンチの昼食を作っていたいただきました。

参加した子どもたちの楽しんでいる様子、喜ぶ声が聞かれ、教育課スタッフにとつても良い活動となりました。